

地域在宅看護論実習

実習目的：地域で生活する対象の健康の保持・増進を目指した地域看護活動を理解する。

在宅で療養する対象とその家族を理解し、健康上の問題と、在宅での看護の基礎を学ぶ

目 標

1. 在宅療養者とその家族を全体的に把握し、その多様性と個別性が理解できる。
2. 在宅療養者とその家族の抱える問題をアセスメントすることができる。
3. 在宅療養者の健康の保持・増進・疾病予防の為に必要な看護と社会資源の活用が理解できる。
4. 訪問看護に必要な基本姿勢・態度・技術を身に付けることができる。
5. 地域看護の意義と役割、及び看護の継続性が理解できる。
6. 在宅療養を継続するための他職種との連携から看護の役割が理解できる。

実習概要

1. 実習施設

- 1) 地域在宅看護論実習Ⅰ：朝霞保健所、高齢者あんしん相談センター、マザーアース地域包括支援センターおおい、または、上福岡リハケアセンター指定居宅介護支援事業所、
- 2) 地域在宅看護論実習Ⅱ：介護老人保健施設、特別養護老人ホーム（入所施設、デイケア）
- 3) 地域在宅看護論実習Ⅲ：訪問看護ステーション福寿草、三芳ロイヤル訪問看護ステーション

2. 実習時期：2 年次 ， 3 年次

3. 実習単位：3 単位 90 時間 1 単位 30 時間（1 時間＝45 分）

4. 実習構成

実習	実習場所	実習時間
地域在宅看護論実習 Ⅰ (2 学年)	地域包括支援センターまたは居宅介護支援事業所 朝霞保健所 学内	10 時間 10 時間 10 時間
地域在宅看護論実習 Ⅱ (2 学年)	上福岡リハケアセンター（2 階・3 階） 介護老人保健施設；デイケア（リハケア又はマザーアース）	20 時間 10 時間
地域在宅看護論実習 Ⅲ (3 学年)	訪問看護ステーション福寿草 または三芳ロイヤル訪問看護ステーション	30 時間
	計	90 時間

5. 臨地実習受講のための前提条件

1. 単位取得領域・科目

地域在宅看護論実習Ⅰ：健康支援と社会保障制度、家族社会学、在宅看護概論

地域在宅看護論実習Ⅱ：地域在宅看護方法Ⅰ、地域在宅看護論実習Ⅰ

地域在宅看護論実習Ⅲ：地域・在宅看護学、基礎看護学実習、地域在宅看護論実習Ⅱ

地域在宅看護論実習Ⅰ

地域包括支援センターまたは居宅介護支援事業所

目的：地域の健康、地域で生活する対象の健康の保持・増進を目指した地域看護活動を理解する。

地域における地域包括支援センターの活動の実際を学び、地域高齢者とその家族へ果たす地域包括支援センターの役割と看護職の役割が理解できる。

1. 行動目標・学習内容

行動目標	学習内容
1) 地域包括支援センターまたは居宅介護支援事業所の活動の実際が理解できる。	①地域包括支援センターまたは居宅介護支援事業所の役割 ・法的根拠・設置基準・組織 ②事業内容 ・介護予防マネジメント ・総合相談・支援 ・虐待防止・早期発見 ・権利擁護事業 ・対象者への訪問活動
2) 地域高齢者とその家族の生活状況と健康上の問題を理解できる。	①地域高齢者の生活状況と健康の問題
3) 地域包括支援センターまたは居宅介護支援事業所の利用者のニーズと支援方法を理解できる。	②家族の生活状況と介護状況 ①利用者のニーズ ・介護負担等の相談 ②支援方法 ・要支援者訪問・ケアプラン作成 ・訪問認定調査・書類手続き代行 ・安否確認　・外出の促し ・介護予防　・転倒予防 ・生活スタイルの構築
4) 地域包括支援センターまたは居宅介護支援事業所の各職種の役割・活動内容と連携方法を理解できる。	①保健師（看護師）・主任ケアマネージャー・社会福祉士の役割と連携

朝霞保健所

目的：地域で生活する人々の健康上の問題・背景とその解決に関わる保健医療福祉活動の実際を学び、看護職が果たす役割を理解する。

1. 行動目標・学習内容

行 動 目 標	内 容 ・ 方 法
1. 保健所の役割・機能が理解できる	・保健所の機能、保健所の概要、事業内容 ・地域の概要、統計
2. 保健所の活動の実際を理解できる	・免許、生活衛生、薬事、母子保健、精神保健、保健予防推進、疾病対策

2. 実習計画

地域包括 支援センター 又は居宅介護 支援事業所	集合 学生挨拶 ミーティング見学，施設オリエンテーション，各職種にインタビュー， 事業所プログラムの参加，同行訪問（見学） カンファレンス「地域包括支援センターまたは居宅介護支援事業所実習を通しての気づきと学び（看護師と多職種の連携・地域での看護師の役割から、自分 はどのように地域看護に貢献していくと考えるか等を踏まえ積極的に臨む。）	10 時間
学内	学びの共有 まとめ 1. 地域看護活動の理念と理論の学習と保健所の事業の中でどのように活用されているか、保健師と連携していく看護師の地域連携を考える。 ①プライマリ・ヘルス・ケア ②ヘルスプロモーション ③エンパワーメント ④アドボカシー ⑤ノーマライゼーション ⑥自己決定	10 時間
朝霞保健所	8：30 までに集合し講義室に着席 出欠確認 施設オリエンテーション，聴講	10 時間

3. 実習方法

- (1) 地域看護活動の理念と理論を学習し、地域包括支援センター・保健所それぞれの役割と活動にどのような場面で活用されているかを学習し実習に臨む。
- (2) 各実習場所の事業プログラムに参加できる場合は、参加に必要な服装等の準備を確認し参加する。
事業プログラムに参加できない場合には、各職種が事業プログラムにどのように関わり、連携をして事業プログラムを運営しているのか、その事業プログラムを実施した後の利用者やご家族の反応はどうだったか等を聴く。

4. 円滑な臨地実習のために予習・復習することが望まれる項目

- ① 地域包括支援センターの目的・機能・役割
- ② 高齢者あんしん相談センター(地域包括支援センター)の所在の人口、高齢人口等の地域の特性
- ③ 関係する法律や制度（講義資料の復習）
- ④ プライマリヘルス・ケア
- ⑤ ヘルスプロモーション
- ⑥ エンパワーメント
- ⑦ アドボカシー
- ⑧ ノーマライゼーション
- ⑨ 自己決定・意思決定支援
- ⑩ フォーマルサービス・インフォーマルサービス
- ⑪ 保健所の機能、市町村の保健所の機能と運営、保健所年報 埼玉県朝霞保健所
- ⑫ 厚生労働省；「地域保健対策の推進に関する基本的な指針

地域・在宅看護論実習Ⅱ

上福岡リハケアセンター（介護老人保健施設 入所）

目的：介護が必要な高齢者の自立を支援し、家庭への復帰を目指し、医師による医学的管理の下、施設サービス計画に沿って看護・介護といったケア、多職種連携の実際を理解でき、介護老人保健施設の看護師の役割と機能を述べることができる。

1. 行動目標・学習内容

行 動 目 標	内 容 ・ 方 法
1) 地域における介護老人保健施設の役割と機能がわかる。	・施設での生活と看護師の役割を知る。 ・自立・回復へ向けた援助 (リハビリテーション、レクリエーション、食事、入浴介助、健康チェック) ・心身の自立と家庭復帰を目指した、リハビリテーションや日常生活の維持に必要な看護・介護サービス ・施設での保健活動の実際
2) 高齢者の特徴を理解し、尊重した関わりができる。	・老化現象の理解 ・高齢者の生活状況、健康状態、精神・心理状態の把握 ・高齢者とのコミュニケーション、生きがい ・健康状態が悪化した場合の対応
3) 高齢者の生活を支える他職種との連携が理解できる。	・ケアマネジャーの役割 ・相談員の役割 ・管理栄養士の役割 ・理学療法士の役割 ・看護師の役割と多職種との連携

デイケア（上福岡リハケアセンターまたはマザーアース）

目的：利用者・家族様の身体的精神的な介護の負担を考え、日常生活上の支援と生活機能の維持向上のための通所リハビリテーションの実際を理解することができ、デイケアの看護師の機能と役割を述べることができる。

1. 行動目標・学習内容

行 動 目 標	内 容 ・ 方 法
1. デイケアを利用する人や家族のニーズが理解できる。	・在宅で療養者と家族の尊厳を守り、その人らしい療養生活の継続に向けた多職種の連携・協働体制の実際
2. デイケアの機能・看護師の役割の実際を理解することができる。	・デイケアにおける看護師の役割・多職種との連携の実際 リハビリテーション、レクリエーション、食事、入浴介助、健康チェックなどの介助を通じ、自立・回復へ向けた援助が理解できる。 ・緊急時の対応

2. 実習計画

曜日	月（1日）	火（2日目）	水（3日目）
時間	10 時間	10 時間	10 時間
内容	介護老人保健施設 午前 ・施設オリエンテーション ・多職種オリエンテーション （身体拘束・虐待について、ケアマネージャーの役割、相談員の役割、 管理栄養士の役割、 施設 PT の役割	介護老人保健施設 午前 入所フロアー ・行動計画発表 ・指導のもと援助見学、一部実施	デイケア または デイサービス 午前 8:45～9:00 お迎え 9:00～10:00 検温、 体調確認、リハビリ、 入浴、趣味活動 11:30～12:00 食事前体操（生き生き体操、呼吸体操、口腔体操） 12:00～12:30 昼食準備、昼食介助
	午後 ・看護・介護の役割 ・施設見学 ・各フロアオリエンテーション 15:30～16:00 カンファレンス 16:00～17:00 記録のまとめ	午後 フロア実習 15:30～16:00 カンファレンス 16:00～17:00 記録のまとめ	午後 13:30～14:00 趣味活動 14:00～15:00 レクリエーション 15:00～16:00 おやつ、送迎バス移動準備 16:00～17:00 記録のまとめ

3. 円滑な臨地実習のために予習・復習することが望まれる項目

- ① 介護保険制度
- ② 介護保険制度における居宅サービス・利用の手続き
- ③ 医療保険制度と介護保険制度に位置づけられる制度
- ④ 在宅看護と施設看護の特徴
- ⑤ 他職種。社会資源・多機関との連携
- ⑥ 対象者の権利擁護

訪問看護ステーション実習

目的：在宅療養を受ける対象（療養者・家族）の特徴を理解し、在宅看護の役割・援助の実際を学ぶ。

1. 行動目標・学習内容

行 動 目 標	内 容 ・ 方 法
1. 在宅療養者とその家族を全体的に把握し、その多様性と個性が理解できる。 2. 在宅療養者とその家族の抱える問題をアセスメントすることができる。	・ 訪問看護前の情報収集 年齢、職業歴、生活歴、家族構成、役割、キーパーソン、既往歴、現病歴、継続受療状況、生活能力、習慣、要介護度、アセスメント、ケアプラン ・ 家族介護者とのコミュニケーション ・ 家庭介護力のアセスメント 介護の知識と技術の有無、介護時間、理解力、意欲 介護の工夫、精神的負担、生活への影響
3. 在宅療養者の健康の保持・増進・疾病予防の為に必要な看護と社会資源の活用が理解できる。	・ 問題点の把握 ・ 医療処置は、指導者の指示にしたがって見学する。 褥瘡処置、膀胱洗浄、経管栄養、吸引、浣腸、導尿、気管カニューレ交換、酸素療法、服薬の管理、家庭でのリハビリテーション
4. 訪問看護に必要な基本姿勢・態度・技術を身に付けることができる。	・ 地域の社会資源 ・ 訪問のマナーと方法
5. 訪問看護の意義と役割、及び看護の継続性が理解できる。	・ 訪問看護ステーションの特徴
6. 在宅療養を継続するための他職種との連携から看護の役割が理解できる。	・ 関係職種のネットワーク 医師、薬剤師、ヘルパー、保健師、理学療法士、社会福祉士・栄養士

2. 実習計画

	1 日	2 日	3 日
時間	10 時間	10 時間	10 時間
内容	・ 挨拶 ・ 行動計画発表 ・ ミーティング参加 ・ オリエンテーション ・ 記録から情報収集 ・ 訪問同行 - 自己紹介 - 援助見学・バイタルサイン測定	・ 挨拶 ・ 行動計画発表 ・ ミーティング参加 ・ 記録から情報収集 ・ 訪問同行 ・ 援助見学・一部計画に基づき指導のもと実施	・ 挨拶 ・ 行動計画発表 ・ 記録から情報収集 ・ 訪問同行 ・ 援助見学・一部計画に基づき指導のもと実施 - 午後：学内；記録整理、追加学習、振り返り

※週のうち、3日間、訪問看護実習を行う。グループ内で、実習の曜日が異なる場合がある。

3. 円滑な臨地実習のために予習・復習することが望まれる項目

- ① 訪問看護制度の創設と発展経緯
- ② 訪問看護ステーションとその機能
- ③ 訪問看護制度に関する規定
- ④ 在宅で求められる技術の応用
 - ・呼吸機能に関する在宅看護技術
 - ・食生活・嚥下に関する在宅看護技術
 - ・排泄に関する在宅看護技術
 - ・移動・移乗に関する在宅看護技術
 - ・清潔に関する在宅看護技術
 - ・認知機能のアセスメント法と看護技術
 - ・在宅における終末期看護 グリーフケア

評価内容		評価基準		自己評価		教員評価		
1. 地域包括支援センターまたは居宅介護支援事業所の機能と役割が理解できる。(40)		①地域包括支援センターまたは居宅介護支援事業所の活動の実際が理解できる。						
		②地域包括支援センターまたは居宅介護支援事業所の利用者のニーズと支援方法を理解できる。						
		③地域包括支援センターまたは居宅介護支援事業所の各職種の役割・活動内容と連携方法を理解できる。						
2. 保健所 (40)		①保健所の役割・機能が理解できる。						
		②保健所の管轄地域の特徴が理解できる。						
		③保健所の活動の実際を理解できる。						
				地域包括・居宅		保健所		
				自己	教員	自己	教員	
3. 学生らしい態度で実習に臨むことができる (20)		①追加学習ができる。						
		②協調性をもって積極的に実習に臨める。(発言・質問)						
		③提出物は指示された方法・期限内に提出できる。						
		④挨拶、身だしなみ・言葉遣いなどの礼儀をわきまえた行動が取れる。施設内でのマナーが守れる。						
特記事項			遅刻 時数	早退 時数	自己評価合計		教員評価合計	

評価者	
	印
	印

実習グループ G

出席番号 番

学生氏名

評価内容	評価基準	自己評価		教員評価	
1. 老人保健施設 (50)	①地域における介護老人保健施設の役割と機能がわかる。				
	②利用者の一日の過ごし方が理解できる。				
	③介護保険制度と施設の機能と役割が理解できる。				
	④高齢者の特徴を理解し、尊重したコミュニケーションなど関わりができる。				
	⑤利用者の療養上の課題が理解できる。				
	⑥指導者と共に利用者への援助に参加できる。				
	⑦高齢者の生活を支える多職種との連携が理解できる。				
	⑧毎日の実習目標を明確にし、指導者に適切に伝え相談することができる。				
	⑨利用者の個人情報・自己決定に配慮した言動ができる。				
	2. デイケア (30)				
②デイケアの機能・看護師の役割の実際を理解できる。					
③利用者のニーズを把握することができる。					
④利用者の療養上の課題がわかる。					
⑤指導者と共に利用者の援助に参加できる。					
		フロア		デイケア	
		自己	教員	自己	教員
2. 態度面 (20)	①追加学習ができている。				
	②個人情報・自己決定・守秘義務について理解できる。				
	③協調性をもって積極的に実習に臨める。				
	④カンファレンスで自分の意見を述べる事ができた。				
	⑤実習内容を明確に報告し、助言を受けることができる。				
	⑥提出物は指示された通り提出期限内に提出できる。				
	⑦挨拶、身だしなみ・言葉遣いなどの礼儀をわきまえた行動が求められる。				
	⑧健康管理ができる。				
	⑨健康管理ができる。				
特記事項	遅刻 時数	早退 時数	欠課 時数	自己評価	教員評価

評価者
印
印

地域在宅看護論実習Ⅲ評価表 【訪問看護ステーション】

評価内容	評価基準	自己評価	教員評価
1. 訪問看護ステーション (80)	①在宅療養者と家族を全体的に把握し、その多様性と個性が理解できる。 ②在宅療養者と家族の抱える問題をアセスメントできる。 ③アセスメントから問題点があげられる。 ④安全な援助の提供方法がわかる。 ⑤訪問看護に必要な基本姿勢・態度を身に付けることができる。 ⑥訪問看護の意義と役割、及び看護の継続性が理解できる。 ⑦在宅療養を継続するための多職種との連携から看護の役割が理解できる。 ⑧地域の社会資源が理解できる。 ⑨ステーションのある地域の特性が理解できる。		
2. 態度面 (20)	①追加学習ができています。 ②個人情報・自己決定・守秘義務について理解できる。 ③協調性をもって積極的に実習に臨める。 ④カンファレンスで自分の意見を述べることができた。 ⑤実習内容を明確に報告し、助言を受けることができる。 ⑥提出物は指示された通り提出期限内に提出できる。 ⑦挨拶、身だしなみ・言葉遣いなどの礼儀をわきまえた行動が取れる。 ⑧健康管理ができる。		
特記事項	遅刻 時数	早退 時数	欠課 時数
			自己 評価 合計
			教員 評価 合計

評価者
印
印